

「いのち」の教育実践事例

多様な生き方や自己の
在り方等について主体
的に考える教育

☆真室川町立真室川中学校の実践

一人一人のよさや生き方を大切にする実践

複数の小学校から進学してくる生徒に対して、一人ひとりのよさや生き方を大切に、誰もが過ごしやすい学校を作っていこうとする実践です。

○ スクールカウンセラーを活用した実践

- ・臨時休校からの学校再開時に、新型コロナウイルス感染症による差別や偏見の未然防止について、スクールカウンセラーから話を聞きました。日常生活の中で、自分たちがどのように行動していくとよいのか考えることができました。
- ・自己肯定感を高め、より良い人間関係を築くことができるよう、落ち込んだ時の心の持ちようを学ぶレジリエンスの授業を行いました。

「どのようにして差別や偏見が生じるのか」「どうすると差別や偏見を防ぐことができるのか」等、心の専門家から話をお聞きしました。



多様な生き方や自己の
在り方等について主体
的に考える教育

☆戸沢村立戸沢中学校の実践

生徒主体の差別や偏見の防止をめざした実践

全校や各学級での生徒主体の取組みを通して、一人ひとりを大切に、よりよい人間関係を築くことができるようにする実践です。

○ 村の一員としての意識を高める実践

- ・コロナ禍を“自分のこと”として認識し、どのように行動するかを考えることを目的に、自分たちで村のためにできることを考え、メッセージを発信しました。自分たちが村の一員であることに自覚を持ち、仲間や地域との関わりが大切であることを実感することができました。



○ 差別や偏見を防ぐ実践

- ・生徒会が中心となり、全校で標語コンクールを実施しました。小学校1年生から中学校3年生までの児童生徒と教職員で作った作品の中から、よりよい標語を生徒たちが選出し、掲示しました。さらに生徒会執行部が脚本・出演・編集を担当し、SNSでの誹謗中傷や密を避けた新しい生活様式の提案などをまとめた動画を作成し、学校のホームページで公開しました。生徒会が主体となって全校で感染症予防と差別や偏見防止に取り組んでいこうという雰囲気が生まれました。

誹謗中傷をなくしたり、
感染を防いだりするため
にどう伝えるといい
か考え、発信しました。

